

Two Sidesの活動がブラジルでも開始される

Two Sidesは欧州の製紙、印刷、出版などプリントメディアにかかわる企業や団体が集まり開始したプリントメディアのサステナビリティ啓発活動で、その活動は米国、オーストラリア、南アフリカと広がり、2014年4月にはブラジルにもNPO団体としてのTwo Sides Brazilが設立された。ブラジルでは42の団体が賛同を表明し、主要紙6社がこの記事を取り上げて紹介している。ブラジル印刷連合会 (ABIGRAF)、ブラジル新聞協会 (ANJ)、雑誌編集者協会 (ANER)、ブラジルオフ輪協会 (ABRO) や Suzano、Sappi、International Paperなどの大手製紙メーカーが主要な推進母体となっている。

ブラジルは2013年にパルプを1500万トン、紙を1040万トン生産する紙大国に成長しており、今後とも森林資源を活用した産業の成長が見込まれている。またプリントメディアに関連する業界をすべて集めると、企業数で8万社、従業員61.5万人、生産額4兆円の一大産業になる。

WPCF・Intergraf 合同会議

6月6日にバルセロナでWPCF (World Print & Communication Forum) と欧州印刷連合会 Intergrafの合同会議が開催された。Intergrafからは、英国のPrecision Printing社とドイツのDruckhaus Mainfranken社の成功事例の紹介があり、WPCFからはPIAが米国の印刷業界の最新動向を、日印産連が日本の紹介を行った。日本の紹介では、市場動向のほか印刷通販の動き、日印産連産連の行ったデジタル印刷アンケート調査の結果紹介、リサイクル対応型印刷物に対する取り組みなどを紹介した。

Precision Printing社は2006年までは従業員数85名、年商9.4億円程度のオフセット印刷会社であったが、同年よりデジタル印刷による小ロットの仕事の取り組みを始め、7年後の2013年にはHP Indigoを6台所有し、デジタル印刷の年商が13.6億円にまで成長している。この間にオフセット部門は10億円と微増にとどまっている。このデジタル印刷の成功は、徹底的な作業フローの自動化により平均単価390円の仕事をピーク時には1日5万点こなせる体制を構築したことによる。ちなみにオフセット部門は2006

年に1日に45点をこなしていたが、2013年には55点をこなすようになったものの平均単価が8.4万円から7.3万円に減少したために売り上げは微増にとどまっている。徹底した作業フローの自動化のほかに、小ロットのプリントサービスを利用する大手ブランド顧客の開拓が重要で、これらの顧客を確保することにより大量の小ロット印刷の仕事を保っている。

デジタル印刷の活用で小ロット印刷をビジネスとして成立させたPrecision Printing社に対して、Druckhaus Mainfranken社はオフセットの徹底的な合理化で事業を拡大した。同社は印刷通販のFlyerAlarm社とオフセット印刷のSchleunugdruck社による合併で2006年に設立され、当初は印刷機2台でスタートしたが2014年にはドイツ国内に6か所の工場を持ち27台の印刷機と1,150名の従業員の規模を誇るまでに成長した。ここでも成功のカギは高度に自動化した作業フローと、FlyerAlarm社のウェブサイトからの仕事取込体制の確立で、大判のオフセット印刷機を使用しながら8時間のシフトで88回の版替えを行い、印刷枚数は多くが100枚程度、多くても1,000枚といった小ロットの生産を行っている。これにより1日に1.3万件の発注をこなし、16時までには受けた発注はドイツ国内であれば翌日の昼までに配送をしている。

欧州の印刷市場は、基本的には日本同様に減少をつづけているが、その中で新しいビジネスモデルを確立することによって1社はデジタル印刷で、もう1社はオフセットで業容を拡大しており、ビジネスの本質はデジタルかオフセットかということ以上に、市場・顧客のニーズにマッチしたビジネスモデルをいかに確立するかが重要であることを改めて認識させられた事例紹介であった。



WPCF参加メンバー (日本、韓国、中国、インド、欧州、米国、ブラジル)